



▲東新町1丁目の発掘調査で見つかった
方形周溝墓と土器が廃棄された井戸
(松原市教育委員会提供)



▲西ヶ池(田井城5丁目)畔、善宗寺
ごしの西南の住宅地が遺跡地



▲東新町第二公園(東新町2丁目)
後方右奥側(西南)で遺構が見つかった。

東新町第二公園から西ヶ池へ 縄文時代〜中世に至る集落跡

近鉄布忍駅から北東方面に歩いて行くと、東新町第二公園と新栄連合会館(東新町二丁目)が目にはいります。同地は江戸時代以降、河内国丹北郡向井村の最北東部に位置し、田井城村(現田井城)や堀村(現天美南)との境界近くにあたっていました。西ヶ池が北方に水をたたえています。

西ヶ池は、堤防を利用した道路で東西に二分されています。東側は田井城(田井城五丁目)に所在し、田井城の田畑に水を送っています。西田池と言ったこともあり、池敷面積は0.71haを測ります。池の南に接して、日蓮宗の善宗寺(「歴史ウォーク」118)が建っており、大相撲春場所の佐渡ヶ嶽部屋の宿舎となり、関取衆のノボリがはためいています。

一方、西側は向井(東新町一丁目)に位置しますが、堀地区の灌漑池でした。池敷面積は0.6haです。地元では、小池ともよばれており、今も小池の小字名が池の南に残っています。

さて、東新町地区には、すでに東代公民館の建つ新池を埋めたた東新町公園(東新町五丁目、「歴史ウォーク」125)がありました。このため、その北部につくられたことから東新町第二公園と名づけられたのです。

平成七年(一九九五)三月から十月

まで、松原市教育委員会では、この地が縄文時代から中世に至る遺跡地であったことから、公園開設に先がけ発掘調査を行いました。

その結果、今から一八〇〇年ほど前の弥生時代中ごろの壺などの土器や溝の跡が見つかりました。さらに、一七〇〇年ほど前の古墳時代初頭の有力者の墓である方形周溝墓や溝跡、井戸跡のほか、甕や壺、高坏、器台などの土師器が検出されました。続く古墳時代後期には灌漑用水路跡や道路側溝と思われる溝跡とともに、杯身や杯蓋の須恵器も見つかっています。さらに、平安時代末期ごろの塀で囲まれた掘立柱建物跡も発見されており、脈々と人々の営みが続いていくことがわかったのです。

同時にこれらの遺構の下層にあたる二五〇〇年前の縄文時代晩期から、二〇〇〇年前の弥生時代前期ごろの地層からは、この時期に起こった地震の痕跡も明らかになりました。地下約二・五mにあった砂層堆積が高さ約1m、幅約1mの大きさで噴き上げている噴砂(液状化現象)が確認されたのです。ここからは、縄文土器や埋没した河川も出ています。東新町遺跡とよんでいます。

公園が整備されたその後、今でも公園北側には所々、田畑が広がっています。ここに新たに住宅地が建設されることから、平成二十三年

(二〇一三)十月から、翌二十四年二月にかけて、教育委員会によって発掘調査が行われたのです。場所は東新町一丁目で、西ヶ池(小池)のすぐ西南にあたります。この調査では、二世紀末から三世紀前半にわたる弥生時代の終わりから古墳時代初めのムラの跡が見つかったのです。

掘立柱建物や柵の柱穴、井戸が複数にわたって検出されています。とくに、井戸からは大量の土器が出土しており、井戸を埋める時に祭祀を行うために用いられたと推察されます。

ほかにも、東新町第二公園の時にも見つかった方形周溝墓が出ています。墓の大きさは墳丘の一边が約8m、周りを幅約3mの溝が囲っていました。墓は、建物跡を囲っていた溝を潰してつくられていますので、住居が移転したあとに、墓地が設けられたと考えられています。方形周溝墓が、のちの時代になって大きな墳丘を持つ古墳に発達していくのです。

東新町第二公園で発掘されたムラと住宅地で見つかったムラが、同じ共同体だったのかなど詳細はわかりませんが、弥生時代から古墳時代のムラの姿を知る発見となったのです。

東新町遺跡は、東新町一・二丁目の発掘地以外にも西ヶ池をはさむ田井城六丁目や天美南一丁目に広がる集落遺跡として、今後も新たな発見があるかもしれません。